

本圃におけるサツマイモ基腐病の伝染方法と発生様相

サツマイモ基腐病は畝上及び畝間の茎で発病を繰り返しながら圃場全体に拡大し、株枯れ、塊根の変色・腐敗を生じる

背景・目的

- ・平成30年に鹿児島県サツマイモ産地で発生したサツマイモ基腐病は伝染や防除法が不明
- ・産地では、収穫前の急速な株枯上がりや、圃場全体への感染拡大で問題は深刻化
- ・本圃のサツマイモ基腐病の伝染方法と発生様相の解明が重要

成果の内容

- ・定植1か月後から地際の茎が黒変し、変色・萎凋する発病株が出現
- ・畝上、畝間の茎で発病を繰り返すことで、急速に発病が拡大
- ・排水の悪い場所で発病が多い
- ・前年多発した本圃では定植後の発病株も多く、発病が継続

期待される効果

- ・本圃での基腐病発病株の抜き取りなど早期防除対策に活用
- ・基腐病の伝染方法と発生様相の理解による効果的な防除対策に活用

※これらの情報については下記の対策マニュアルを参照



○普及対象・範囲
サツマイモ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室
イノベーション創出強化研究推進事業
(01020C)

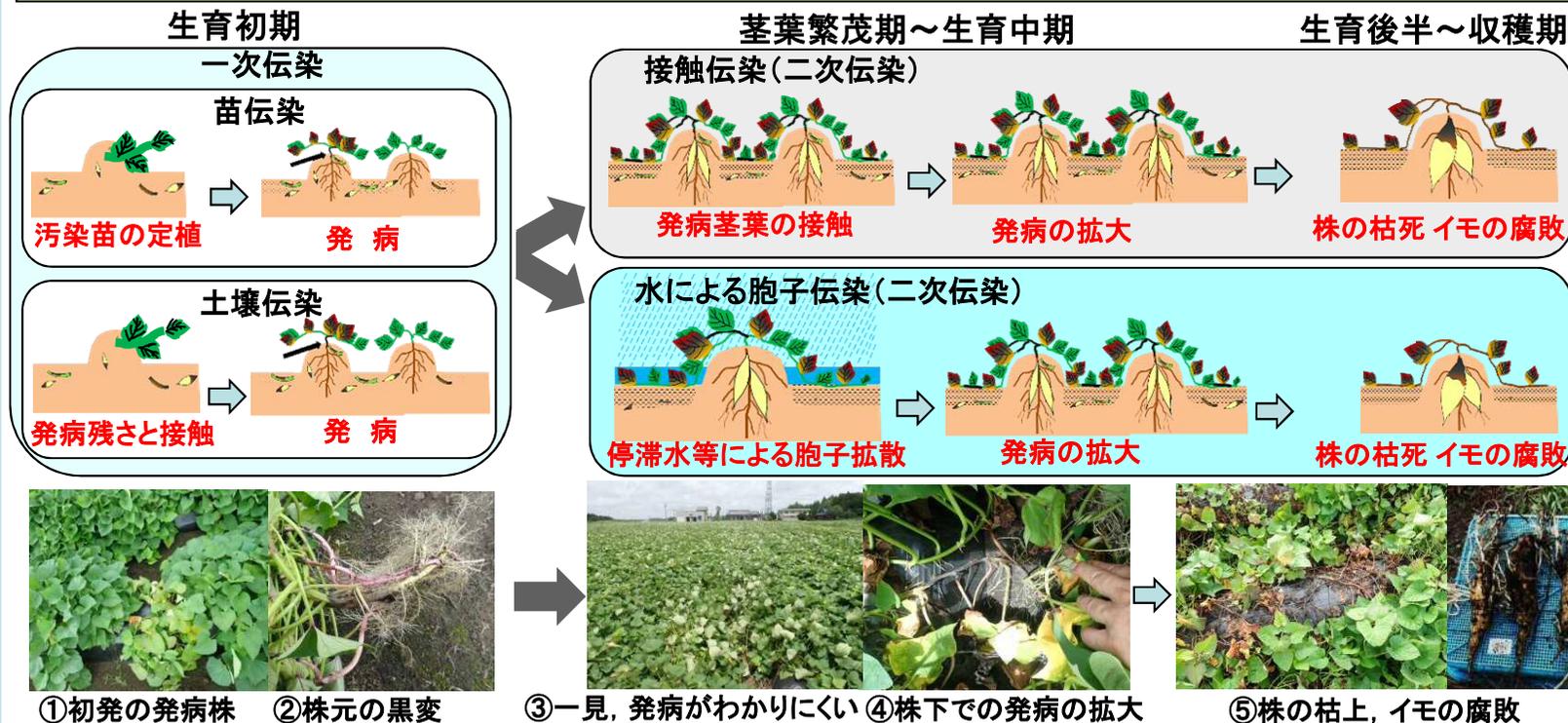


図 本圃におけるサツマイモ基腐病の伝染と発生様相